

# 金山町立金山中学校 第11号

## 学校だより

令和5年2月1日発行  
発行責任者:金山中学校長

### 校内スキー教室 ～金山町の雪を満喫～

1月27日(金)、フェアリーランドかねやまスキー場で校内スキー教室を行いました。前々日には大寒波に見舞われ天候が心配されましたが、当日は青空が広がり絶好のスキー日和となりました。午前中は上級・中級・初級に分かれてスキー学校の指導員から技術指導をしていただき、生徒個々の能力に応じた丁寧な指導の下、技能のレベルアップを図りました。午後はフリー滑走とし、新雪での滑走に挑戦したり、午前中に学んだ技能を復習して滑ったりと、生徒たちは地元の自然を十分に満喫しながら滑走を楽しむ姿が見られました。「新雪の滑り方がわかった」「もう一回スキー教室がやりたい」という声が多く聞かれるなど、充実したスキー教室となりました。



## 令和5年度新入生5名を中学校に迎えて ～新入生説明会の実施～

令和5年度の金山中学校入学に向け、1月31日（火）、小学校6年生の児童とその保護者を対象とした新入生説明会を金山中学校で実施しました。令和5年度新入生は、金山小学校より2名、横田小学校より3名の計5名となります。5名の新入生は緊張した面持ちでしたが、その中でも中学生になるという決意と新しく始まる中学校生活への期待が感じられました。

説明の他にも、英語の模擬授業や部活動見学、在校生との交流の時間があり、中学校生活の一端を体験することで、新しい環境への不安がちょっぴり楽しみに変化したように感じます。5名の皆さんには、残りの小学校生活を悔いの残らないものにするとともに、最上級生としての責務をしっかりと果たしてきてほしいと思います。また4月より2・3年生に進級する現1・2年生の皆さんには、先輩として在るべき姿をしっかりとイメージし、行動で模範を示すことができることを期待しています。



## 春の訪れを感じる「節分」の意義を知る

2月になりました。2月は1年のなかでも短い月ですから、あっという間に逃げてしまうとも言われます。2月4日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」と言われる日です。昔の暦では、この頃が1年の始まりであるとされていました。江戸時代頃からは、毎年2月4日の立春の前日を「節分」と言うようになったそうです。

節分の行事は、「鬼は外、福は内」と大きな声で炒り大豆（福豆）を撒き、年の数より1つ多い数（もしくは年の数）だけ豆を食べます。また、邪気除けとして、柊（ひいらぎいわし）という柊の小枝と焼いた鯛の頭を門口に挿します。季節の変わり目は邪気が入りやすいと言われ、それを除けるために豆撒きをしたり飾りを付けたりしたのです。最近では、幸運を招く方角を向いて黙って太巻きを丸かじりする風習も人気となっています。こうした風習は地域によっても違いがあるようです。

長く厳しい冬が一段落して、春の訪れを待ち望む歌が多くあります。「春よ来い」「春が来た」「春（春のうららの墨田川）」などです。長い冬の後にくる春の穏やかな季節は、冬の暮らしを過ごしている人たちにとっては昔から変わらない大きな喜びであり、その前の節分は春を迎えるために、昔からある大切な行事と言えます。

皆さんは春をどのような気持ちで迎えますか。皆さんから追い出した鬼はどんな鬼でしょうか。「わがまま鬼」「忘れ物鬼」「いじわる鬼」などいろいろあるかもしれません。自分ではわがままをしない、忘れ物をしない、いじわるをしないと思っても、なかなかできないこともありますが、こうした心の中に住む目に見えない悪い鬼は、「鬼は外」で追い出し、新鮮な気持ちで春を迎えたいものです。

